

## 令和3年度 自己点検・自己評価結果

### 1. 自己点検・自己評価の目的

看護師養成所の責任として教育水準の維持・向上を図るために、教育活動及び学院運営のあり方全体を自己評価するものです。

### 2. 結果

教育活動の9カテゴリ（48項目）に対する教職員の評価を、「そう思う：4点」「ややそう思う：3点」「あまりそう思わない：2点」「そう思わない：1点」と点数化して、集計した結果のカテゴリ別平均点を表1・図1に示しました。

全カテゴリ48項目別の平均点は表2に示しました。また、カテゴリ別評価割合は図2に示しました。

カテゴリ別の平均点はすべて3.0以上であり、昨年度と比較するとすべてのカテゴリ平均点が上昇しました。

表1 カテゴリ別平均点

カテゴリ	評価項目の概要	カテゴリ別平均点	昨年度
I 教育理念・教育目的 (4項目)	教育理念・教育目的は学院の教育上の特徴を示し、学修指針の明示。教育内容、教育方法、教育環境を述べ、卒業時の学生像を明示	3.8	3.6
II 教育目標(4項目)	教育理念・教育目的と教育目標の一貫性、到達目標を示し、看護実践能力の育成表現、卒業後の継続教育の考えを示した目標の設定	3.7	3.6
III 教育課程経営 (9項目)	教育目的・目標に沿った教育課程編成、単位履修方法・単位認定基準、教育課程の評価体系の整備。教員の担当科目と準備時間、実習施設確保、安全教育の体制	3.6	3.5
IV 教授・学習・評価課程 (4項目)	看護学教育として適切な授業内容か、授業内容に応じた授業形態、目標達成評価とフィードバック、学習の動機づけと支援体制	3.5	3.4
V 経営・管理過程 (11項目)	設置・管理運営に関し教職員の理解、意思決定システム・役割の明確化、組織決定事項の周知、施設設備、学習継続支援体制、教育活動への関係者の協力支援、中長期・年間計画立案、自己点検評価の取組み	3.7	3.4
VI 入学(4項目)	入学者選抜方法の明確化、選抜方法妥当性検討、入学者の確保活動	3.9	3.8
VII 卒業(4項目)	卒業時の目標到達および就業・進学状況分析、就業先での問題分析、卒業生の活動状況把握と分析	3.7	3.4
VIII 地域社会(3項目)	地域社会貢献、教育活動へのニーズ把握、地域への情報発信	3.7	3.4
IX 研究的活動(5項目)	自己研鑽・相互研鑽システム整備、研究活動への支援体制、研修成果の教育活動への反映	3.2	2.7
	平均点	3.6	3.4

表2 カテゴリー項目別平均点

カテゴリー	項目	項目別平均点	R2年度
I. 教育理念・教育目的	1. 看護学院の教育上の特徴を示し、法との整合性がある。	3.9	3.7
	2. 学生の学修の指針となるよう明示し、指針となっている。	3.8	3.5
	3. 看護師の質確保のための教育内容、教育方法、教育環境を述べている。	3.7	3.6
	4. 卒業時の資質を明示し社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	3.8	3.6
II. 教育目標	5. 教育理念・教育目的と一貫性があり、教育内容を網羅している。	3.9	3.6
	6. 教育活動の到達目標を示し、具体的で実現可能なものとなっている。	3.6	3.5
	7. 育成すべき看護実践能力と学習者としての目標を設定している。	3.7	3.4
	8. 卒業後の継続教育の考え方を示した教育目標である。	3.8	3.6
III. 教育課程経営	9. 明確な根拠をもって教育課程を編成している。	3.9	3.5
	10. 明確な考え方と根拠で科目・単元を構成し、教育目的・目標に対して妥当である。	3.8	3.8
	11. 科目配列、履修方法、単位履修の方法と制約をわかりやすく示している。	3.7	3.6
	12. 単位認定の基準・方法は妥当である。	3.8	3.6
	13. 教育課程を評価する体系を整えている。	3.5	3.4
	14. 教員の専門性を配慮した担当科目・時間数を配分し授業準備時間をとれる体制を整備。	2.4	2.5
	15. 臨地実習施設を確保し、指導体制がとれている。	3.8	3.7
	16. 対象者の権利尊重の考え方にに基づき学生指導を計画的に行っている。	3.8	3.6
	17. 安全教育、安全対策を計画的に行い、発生事故の把握と分析をしている。	3.8	3.7
IV. 教授・学習・評価過程	18. 授業内容は科目目標と看護学の教育内容として妥当、科目間の整合性、発展性が明確。	3.7	3.4
	19. 授業形態(講義、演習、実習)は、授業内容に応じ選択し効果的指導体制がとれている。	3.6	3.3
	20. 目標達成の評価とフィードバック	3.4	3.3
	21. 学習への動機づけと支援ができています。	3.5	3.5
V. 経営・管理過程	22. 設置・管理運営に関する管理者の考え方が明示され、教職員は理解している。	3.7	3.5
	23. 組織体制は教育目的達成のために意思決定システムや権限、役割機能が明確である。	3.8	3.2
	24. 組織構成員の意思の反映や決定事項の周知がされている。	3.2	3.1
	25. 教職員任用の考え方と資質向上対策の考え方は、教育理念・教育目的と整合性がある。	3.7	3.4
	26. 教職員は、どのような財政基盤で成り立っているかを理解している。	3.6	3.4
	27. 必要な施設設備及び備品を計画的かつ状況に合わせて整備している。	3.5	3.5
	28. 学習継続のための支援体制が整っている。	3.7	3.5
	29. 教育・学習活動に関する関係者の協力支援を得ている。	3.8	3.2
	30. 看護師養成機関として、社会的説明責任を果たしている。	3.8	3.5
	31. 中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	3.7	3.4
	32. 自己点検・自己評価組織があり、課題や改善への取り組みを継続している。	3.8	3.6
	VI. 入学	33. 入学者選抜委員会を組織し選抜の考え方を明確にしている。	3.8
34. 入学後の成績、学習状況を分析し、選抜方法の妥当性を検討している。		3.8	3.6
35. 入学試験に関して公平性、公明性を確保し、一貫した対応をしている。		3.9	3.8
36. 積極的な募集活動を行い、入学者の確保に努めている。		3.9	3.8
VII. 卒業	37. 卒業時の教育目標の到達状況を捉え、分析している。	3.8	3.6
	38. 卒業生の就業・進学状況を分析している。	3.8	3.6
	39. 卒業生の就業先評価を把握、あるいは調査し、問題を明確にしている。	3.4	3.1
	40. 卒業生の活動状況を把握、あるいは調査し、分析している。	3.7	3.2
VIII. 地域社会	41. 教育活動をとらして、地域社会への貢献を組織的に行っている。	3.7	3.6
	42. 教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。	3.7	3.3
	43. 教育活動について、地域に情報発信している。	3.8	3.3
IX. 研究的活動	44. 教員が自ら成長できる自己研鑽のシステムを整えている。	3.2	2.9
	45. 教員が相互研鑽できるシステムを整えている。	3.1	3.0
	46. 教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)し、助言・検討する体制を整備。	2.8	2.1
	47. 教員は研修目標を明確に持ち、成果を教育活動に反映させている。	3.5	2.9
	48. 研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地がある。	3.1	2.7
	全体	3.6	3.4

図1. カテゴリー別評価

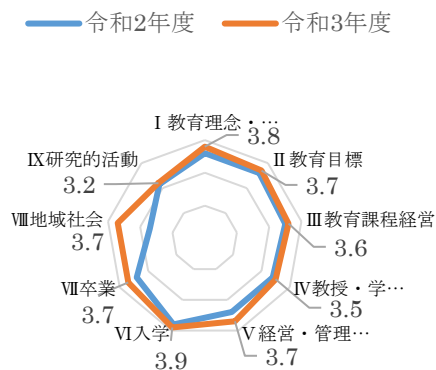
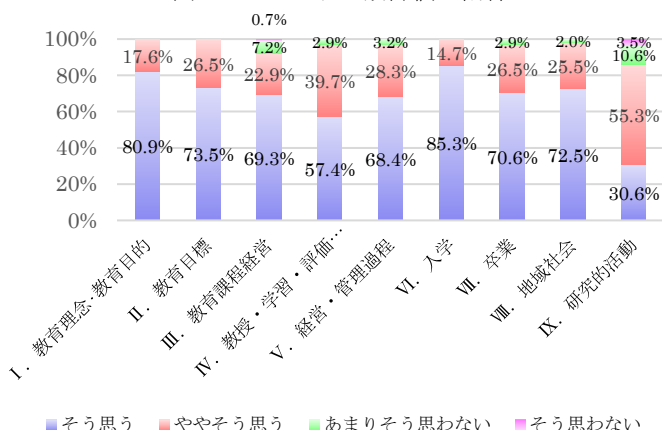


図2 カテゴリー別評価：割合



## 1) 各カテゴリー別評価

### I 教育理念・教育目的

生命の尊厳と個人の尊重を教育理念とし、十勝地域の保健医療福祉の向上発展に貢献できる職業人を育成するために教職員全員で教育運営をしています。看護師の使命と役割を果たす上で日頃から責任ある行動をとれる人になることを徹底して求め、豊かな人間性と倫理観を身につけた専門職業人に育つことを願い、主体的な学習及び自律した生活に向け支援しています。新カリキュラムの構築にあたり、あらためて共有した教育理念・教育目的をもとに教育を実践していきます。

### II 教育目標

教育目標のもと、教育内容を精選するとともに各教育活動の到達目標を常に意識しながら教育を運営してきた結果が全体の点数に反映されていると考えます。教授・学習活動について常に評価・修正しながら明確な到達目標を設定し、学生と共有しながら教育目標の達成を目指します。

### III 教育課程経営

評価項目のうち「教員の専門性を配慮した担当科目、時間配分と授業準備時間をとれる体制整備」は全48項目のうちで最も平均点が低く、昨年度と同様の結果でした。実習期間中は授業実施時間を除きそのほとんどを実習指導に費やし、日々学生への学習や生活指導に要する時間が多いため、授業準備時間の捻出が難しい状況です。

3.8点以上の高得点項目は、教育目標の達成に向けて継続的に各科目・単元のねらいを検討し、講義・演習・実習と計画的に取り組んできた結果と考えます。

臨地実習においては、十勝管内の各自治体が本学院の設置主体であることから、多くの関係機関の協力のもと、多様な施設での実習を行っています。主たる実習施設である帯広厚生病院とは毎月委員会を開催し、連携を密にしながら看護師の育成に努めています。

次年度は新カリキュラムの開始により、実習を中心に教育課程が大きく変更するため、コロナ禍にあっても教育の質の維持・向上を目指し、柔軟かつ確実に教育運営をしていきます。

### IV 教授・学習・評価過程

9カテゴリーの中で2番目に低い結果であり、昨年度と同様でした。ただ、カテゴリー内の4項目は昨年度と比較し、すべて平均点の上昇がみられています。最も低い項目は「目標達成のための評価とフィードバック」です。コロナ禍で教授・学習方法の急な変更も多く、目標と内容を再検討しながら実施することに時間を要し、評価とフィードバックが不十分だと考えている状況が伺えます。各教育活動の評価を教務会議等で報告・共有し合い、次の教育活動に早期に繋げるとともに新カリキュラムと現行カリキュラムの確実実施と移行が効果的に進められるよう努めていきます。

## V 経営・管理過程

十勝管内市町村の財政支援と経営管理体制のもとで安定した学院運営が維持されています。施設設備の整備・修繕が飛躍的に進むとともに学修に必要な教材購入も計画的に行い、学習環境の整備に努めています。

今年度も感染対策の徹底と学修の保障のために学校としての方針の決定・周知と教育課程の実施及び経営管理上の問題を速やかに解決しながら経営・管理を進めました。教職員がそれぞれの立場で主体的に役割を果たし、学修環境の整備や学生たちの学修の保障に尽力しています。新しい学習や生活の形が求められる中、学生たちがより良い教育環境の中で安全に安心して学修できること、併せて組織として速やかな判断・周知とタイムリーな業務調を行っていく必要があります。

## VI 入学

カテゴリー平均点は9カテゴリーで最も高い結果であり、昨年同様の傾向でした。入学試験および選抜協議のあり方への理解が得られており、入学試験に関する公平性、公明性は確保されているといえます。積極的な受験生確保対策として学院見学会と高校訪問等でのPRを継続しています。学院内受験生確保対策推進委員会は、学院PR活動を継続し、受験生のニーズを考慮した学院見学会の内容・方法の企画・実施とともに高校低学年向けのオンライン見学会を実施しました。18歳人口の減少と大学志願者の増加のなか、3年課程の看護師養成所として十勝地域で求められる役割と使命が果たせるよう看護師志願者の増加を目指し、努力していきます。

## VII 卒業

カテゴリー内評価項目のうち「卒業生の就業先での評価の把握や問題点の明確化」が最も低いという結果でした。卒業生とのつながりは深く、卒業後の就業状況等、個別に様々な情報を得る機会はあるものの就職先で卒業生が抱える課題や困難さ等の実態や活動状況の全体把握はしていない状況です。卒業生の就業状況について就業施設と卒業生からも把握し、教育活動の評価と教育機関と就業施設との連携について評価・検討することが課題と考えます。

## VIII 地域社会

近年、地域のボランティア要請に積極的に応えていましたが、今年度はコロナ禍のため要請がほぼない状況でした。感染症の拡大状況と社会経済の動向を注視しながら、十勝地域のニーズをとらえる視点を持ち地域貢献していくことが必要と考えます。

## IX 研究的活動

例年同様、最も平均点の低い結果でした。研究的活動に取り組むことのできる組織的な体制づくりは継続課題です。現状においては看護技術指導や看護過程演習、臨地実習指導などの教材化に関して議論しながら改善点を見出し、教授活動に反映させることを継続していきます。

### <今後の課題>

- ◎新カリキュラムと現行カリキュラムを柔軟かつ確実に運営する。
  - コロナ禍における授業内容に応じた効果的な授業の実施（講義・演習・実習）
  - 授業準備時間の確保のための業務管理
  - 卒業生の就業状況の把握と教育活動の評価
  - 研究的活動への体制づくり